

大阪市イノベーション促進評議会 平成 26 年度第 2 回 会議要旨

1 日時 平成 27 年 3 月 23 日（月）9 時 30 分から 11 時 30 分

2 場所 大阪イノベーションハブ（WEB 会議）

3 出席者

（委員）

松本委員長、藤沢委員、吉原委員、田路委員

（経済戦略局）

吉川理事、折原課長、角課長代理

4 議 題

- ・平成 26 年度の大阪イノベーションハブの活動状況と自己評価について
- ・平成 27 年度事業及び次期事業に向けての方向性について

5 議事要旨

意見等の概要は以下のとおり。

（ 1 ）平成 26 年度の大阪イノベーションハブの活動状況と自己評価について

- ・プロジェクト創出は、もう少し結果が出てほしいと思う。関西の経済団体が本当の意味で大阪イノベーションハブ（以下、「OIH」という。）をサポートするような環境づくりが、プロジェクト推進の上で肝要。段階別評価としては B でよい。コミュニティ形成は会員数もイベント参加者数も順当に増えており A でもいい。他は A で妥当。
- ・イノベーションハブの会員組織である大阪ハッカーズクラブでは、会員の持っている能力、興味などでカテゴライズし、ピンポイントなネットワーキングの機会を戦略的に作ることが 3 年目に向けてより肝要。
- ・英語のプログラムや告知は意義がある。東京でもなかなかできておらず大阪市の努力は、これからも続けて欲しい。大学のスーパーグローバルの取り組みと連携したイベントもやってもいいのではないか。
- ・自治体同士の連携、地域を越えてハッカソンやピッチを行う。大学は中核的研究拠点でもあり、地域を超えてプロジェクトを組んでいるところが増えてきているので、大阪のリソース、特区も活用して、地域を超えた大学で何かやるのもいい。
- ・プロジェクトを創出するためのアプローチとして、起業しやすい環境をつくるもの、特定の分野によるアプローチするもの、おのおのの企業の目標に合わせるもの、それら 3 つの流れがある。モチベーションをはっきり持っている会社をこちらから選ぶことをしないと、あっという間にまた一年が過ぎてしまう。

- ・大手企業のオープンイノベーションのムーブメントをうまく取り込むかが大きな課題。
- ・大手がここで何かやるときには、今年度はアイデアを求めるものが多かったようだが、他にもっといろいろなやり方もある。大手側が自分たちが持っている特許やシーズをここで出して何かをするというような逆のやり方も。
- ・オープンイノベーションを模索している企業が多い中であって、担当者の人材育成の場として設定するとか、いい人材がいれば人材発掘の場にもなるというように企業も、OIHと関わることでメリットがあるというようにデザインしていくことが重要。
- ・大手が今何に困っており、どういう機能があれば大手は喜ぶであろうとか、そういうことをこちらでプランニングして解決策を出していく、それで活用してもらおうというのも大事。

(2) 平成27年度事業及び次期事業に向けての方向性について

- ・OIHが27年度に向けて達成しようという目的に合っているかという視点で優先順位をつけると、やはり結果を出すためには、オープンイノベーション、イノベーションエクステンションというものを真剣に考え、厳しいマーケットの中で競争されている企業に戦略的にこちらからアプローチして、OIHを企業のニーズに合わせた形に進化させていくことが肝要。そのためには、政府がやろうとしている地方創生など、利用できるものは全て利用して、企業中心なイノベーションなのか、テーマ中心なのか、起業家中心なのかははっきりと認識しながら時間を効率的に使っていただきたい。
- ・プロジェクトについて、OIHがどのステージでどう関わって、ここまで行ったという整理が必要。
- ・3年を終えたところで、OIHが、それをやれば他の手本になるようなもの、もしくはそれがそのまま事業として残せるものをつくらうと思うと、どこにフォーカスをあてるのか、ポイントを考えるべき。

6 会議資料

- (1) 資料1 平成26年度事業にかかる目標設定とアウトカム(成果)について
- (2) 資料2 議論のための参考資料